

震災からの復興活動に取り組むリーダーを、短期・中期・長期の3つのフェーズで支援します

# 震災復興リーダー支援プロジェクト

Support our Disaster Recovery Leaders - Relieve, rebuild and re-start Japan

## 経過報告レポート (2011.8.12-9.11)

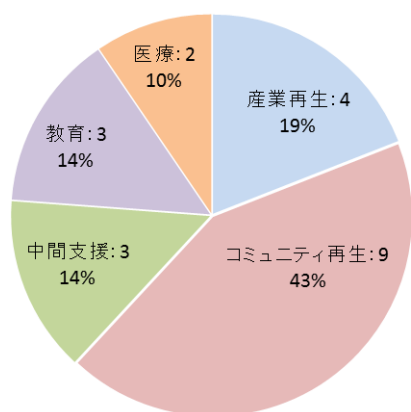
### 1 震災から半年を迎えてー 右腕の派遣目標を100名から200名へ

3月11日から半年という時間が流れました。

ETICの活動も、3月14日に発足したつなプロ(被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト)への参画をはじめとした緊急支援、避難者支援から、現地の復旧・復興の取り組みのサポートを目的とした右腕派遣事業の展開へと、活動の柱が移行しています。

現在では、産業復興やコミュニティ再生に取り組む21のプロジェクトに41名の右腕人材を派遣しています。(初期のつなプロへの派遣を含めて合計「56名」を派遣)

派遣先プロジェクト分野比率



また、震災復興リーダー支援プロジェクトでは、右腕派遣事業をスタートさせて以来、「3年間で50プロジェクトに100人の右腕」を派遣することを目標として掲げてきました。

しかし、ETICのコーディネーターが現地を回り、コミュニティの再生や産業の復興を目指して新たに立ち上がったプロジェクトへのヒアリングや意見交換を重ねる中で、リーダーのパートナーやプロジェクトの事務局の役割を担うべき人材の不足が深刻であり、右腕人材へのニーズが予想以上に高いことがわかってきました。

このため、震災より半年のタイミングを機に「3年間で50プロジェクトに200名の右腕派遣」へと目標数値を上方修正することとしました。

また、今後右腕派遣先プロジェクトに対して、各プロジェクトの成功を支えるために、様々な経営資源(資金調達先・事業パートナー・各種専門人材など)をつなげながら、ハンズオンでのサポートも進めてまいります。

①緊急・短期:被災者支援  
(震災弱者支援のためのコーディネート機能の確立)

②短・中・長期:被災地の復興に向けた事業・プロジェクトに  
取り組むリーダーの支援  
(リーダーを支える「右腕」となる若手人材を派遣)

③中・長期:新たな震災復興リーダーの育成・輩出  
(産業再生・地域再生を担う新たな起業家の支援)

### 2 プロジェクト紹介&右腕インタビュー ーぐるぐる応援団ー

#### ■コミュニティバスの運行から「生きがづくり」へ

このプロジェクトは、津波で13台のバスが流された南三陸観光バス株式会社と連携し、同じく津波で自家用車を失った被災者や交通手段を持たない仮設住宅の高齢者などを対象としたコミュニティバスの運行プロジェクトとしてスタートしました。

震災直後は、交通網が寸断された状況の中、「買い物ができない」「通院ができない」「通学ができない」という切実な問題の解決が急務と考えられていました。

しかし、テスト運行や地域への度重なるアセスメントを経て、被災直後に聞こえてきた声や想定と実際のニーズがだいぶ異なることが明らかになります。

交通網の整っていない仮設住宅に住む人たちの多くが自ら足を確保しているという状況、移動の不便を心配して週末に子どもたちが訪ねてくれるのを楽しみにしているお年寄りの存在、そういったことが浮かび上がってくる一方で、その背後にある別の課題が見えてきました。「買い物とかの活動や通院って、本当にできなくて困っている人もいる。ただ、そこそこ活動できる人にとっては日常生活を楽しむための手段でもあるということを実感しました。」と、リーダーの鹿島美織氏は語ります。地域の高齢者にとっては、スーパーに行くために移動すること自体が日常の大事なイベントそのものであり、買い物という目的があって、その手段が失われて困っていただけではなかったのです。

そこで、ぐるぐる応援団では、活動の転換を図ります。移動手

段の提供を中心としたものから、震災で失われた日常の中にあった「生きがい」や「やりがい」を生み出していくための活動へ。

その現場で、鹿島氏とともに、被災により生活のサイクルを失ってしまった人たちに新たな「生活」づくりに取り組んでいる右腕・渡邊恭成氏に話を伺いました。

## ■右腕インタビュー 渡邊 恭成 氏

渡邊氏は、学生時代からものづくりを志向し、大学院で機械工学を専攻、以前は PC 周辺機器メーカーに勤務し、商品企画・開発を担当していました。海外への留学を考え、退職した矢先に震災が発生、ボランティアとして宮城県石巻市で汚泥のかき出し等に従事する中で、長期的な支援活動が必要である現実を目の当たりにし、右腕として復興に従事することを決意しました。

—8月12日に参画されて1カ月が過ぎましたが現在の仕事はいかがですか？

現在は仮設住宅のお母さんのところを回って、お弁当を作ってもらうようなチームづくりを行っています。お弁当をつくることで、お母さんたちの「生きがい」が生まれ、チームとして活動することで、小さなコミュニティが生まれます。

ボランティアの方が来るイベントにおいて、お昼ご飯をつくってもらっているのですが、そのときに、お母さん5~6名でチームを組みます。そうすると、ひとつの目標に向かっていいコミュニティができます。

さらに、お母さんたちがボランティアにお弁当を持って行ってもらうことで、外部との接触が生まれ、ボランティアの方たちともつながりが生まれます。



—今後の取り組みは？

現在は避難所の集会所でお弁当をつくっていますが、この活動のための拠点として、お弁当をつくる店舗を探しているところです。事業が本格化してくると、衛生管理上の届け出など、様々な手続きも発生してくることが想定されますね。

また、お弁当以外のコミュニティづくりの活動として、避難所の集会所で子ども向けのイベントを行うなどの子どもたちの支援やお母さん向けのお茶会、マッサージの場を設けたりもしています。

—右腕として参画した背景、また今後のビジョンはどのようなものですか？

仕事を辞めたあと、北欧にワーキングホリデーに行く予定だったのですが、そこに震災が起き、予定を変更して石巻で汚泥の掻き出しボランティアに向かいました。

その際に、この復興には長期的な取り組みが必要であることを目の当たりにし、現地でそれに深く携わりたいと思いました。

ぐるぐる応援団に参画したのは、社会的な事業、特に高齢者支援への関心があったためです。右腕派遣の仕組みを知ったと

きに、実情を把握し現地で取り組むまたとない機会と思い、独居老人や、無縁社会などの社会問題に取り組みたいと強く思いました。将来的には、ここで学んだことを活かして、新しい仕組みを作り出して、社会に価値ある仕事をしていこうと考えています。

—最後に、参画して感じていること、これからに向けての思いをお願いします

支援する側も、される側も、どちらも「人」であって、それぞれ意見が違い、いろんな人がいるのだということを実感しています。



被災地の現状は、既に緊急フェーズから復旧・復興に移行しています。たとえば、炊き出しのような活動をして、かえって地域の飲食店の妨げになってしまう。今までのような支援のあり方は終わったと感じています。

これからは、現地の人と共がんばっていく、地域の人たちが自分たちでがんばれるきっかけを創っていくことが大切です。活動を通して、地元の人たちが、「がんばろう」と思えるきっかけづくりをしていきたいと思っています。

## 3 右腕派遣先プロジェクトへのハンズオン支援をスタート

### ■被災地子ども白書刊行のためのリサーチプロジェクト

—8月21日(日)キックオフ

右腕派遣先プロジェクトへのハンズオン支援のひとつとしてスタートした「リサーチプロジェクト」。震災発生直後、いち早く避難所での子どもの学習支援を開始した NPO アスイクからの要請により、「被災地における子どもの教育環境調査」をサポートしています。このリサーチプロジェクトには、首都圏の専門性を持つ5名の社会人ボランティアが、12週間(週10時間程度)かけて調査・提案を実施。ETICは、リサーチテーマの設計、プロボノの募集、リサーチ過程のマネジメント補助などの一連のプログラムをコーディネートしています。

本プロジェクトでは、NPO 法人アスイクが取り組む「被災地子ども教育白書」に関わるデータ・リサーチを実施します。被災した子どもたちが置かれた状況を可視化し、広く社会に伝えることで、以下の変化を生み出します。(1)子どもたちに本当に必要な支援が届くようになること、(2)日本・世界からの被災地への関心を持続させること、そしてさら



に(3)震災前から問題となっていた貧困家庭などの教育問題へと、橋渡ししていくこと。

キックオフ当日は、予定していた時間を大幅にオーバーし、議論が白熱していました。引き続き、プロジェクトの進行と、アスイクの活躍は要注目です。

## 4 トピックス (2011. 8. 12-9. 11)

ETIC. 震災復興リーダー支援プロジェクトの企画・開催によるイベントのほか、この間の出来事等をご報告します。

### ■ SVA (ソーシャル・ベンチャー・アライアンス)

#### ETIC. 震災復興リーダー支援プロジェクト戦略会議 —8月26日(金)—

8月26日(金)、ETIC. オフィスにおいて、「SVA (ソーシャル・ベンチャー・アライアンス) : ETIC. 震災復興リーダー支援プロジェクト戦略会議 ～復興プロジェクトをいかに加速できるか? 被災地のイノベーションに向けてベンチャーは何ができるのか?～」を開催しました。

SVA とは、次世代起業家の育成とソーシャル・イノベーションの創出をめざすベンチャー企業経営者のネットワークで、ETIC. が事務局を担っています。

今回は、復興フェーズに入った東北地方のイノベーションを加速させる可能性を話し合うとともに、震災復興リーダー支援プロジェクトの今後の展開について、それぞれの経営者の方々のもつ経験や知見をもとにブラッシュアップを行う場として企画しました。

当日は、IT や運輸、化粧品、人材ビジネスなどの経営者の参加を得て、これまでの各企業の震災復興に関わる取り組みが共有されるとともに、右腕人材のリクルーティングやプロジェクトへの支援における企業とのコラボレーションや、東北地方の企業人や大学とのネットワークづくりといった課題についてディスカッションが繰り広げられました。

### ■ 東北厚生局長との意見交換会 —8月30日(火)—

8月30日(火)、厚生労働省の藤木則夫東北厚生局長との意見交換のため、医療・福祉系の分野で活動している復興リーダーとともに東北厚生局(仙台市)を訪問しました。

今回の機会は、ETIC. と交流のある NPO 法人ケアセンターやわらぎの石川治江代表の仲立ちで実現したもので、藤木氏が新たに着任されるにあたり、東北の医療・福祉分野の NPO 等と情報交換の場を持ちたいと希望されたことがきっかけとなりました。

東北における医療・福祉分野の行政機関トップと、現場で活動する NPO 等のリーダーとの懇談の機会は、これまではあまりみられなかった試みです。今後も、ETIC. のネットワークを活かし、復興を担うプロジェクトと様々な主体とを「繋ぐ」活動を展開していきます。

### ■ 短期プロジェクトスタッフの募集をスタート

右腕派遣事業に加えて、復興を推進するプロジェクトへの人材マッチングの取り組みとして、短期プロジェクトスタッフの募集

をスタートしました。

これは、主に大学生を中心とした 20 代～30 代の若者を対象とした 2 週間から 1 カ月のプログラムです。リーダーとともに、今後の中長期支援に繋がる「型」づくりの一端を担う人材を募集し、11 月末までに 50 名の派遣を予定しています。

下記の特設サイトで募集内容や募集中プロジェクト一覧を紹介していますのでぜひご覧ください

### 震災復興短期プロジェクトスタッフ

» <http://tanki-fukkoupj.etic.jp/>



## 5 ご支援・ご寄付等のお願い

当初、3年間で3億3千万円の予算を想定してスタートした震災復興リーダー支援プロジェクトは、上述のとおり現在、右腕人材の派遣目標数 100 名から 200 名への上方修正をはじめとして、被災地の現状と本事業へのニーズを反映した計画の見直しを進めています。これに伴って予算規模もより大きなものとなる予定で、事業の推進だけでなく、寄付募集の体制充実にも一層注力してまいります。

引き続き、「震災復興リーダー支援基金」へのご寄付、個別の連携等のご支援や、本事業の周知へのご協力など、お力添えのほど、よろしくお願い申し上げます。

### 信頼資本財団 「震災復興リーダー基金」

» <http://www.shinrai.or.jp/fukkou-shien/etic2/>

※本基金へのご寄付は寄付金控除の優遇措置の対象となります

### 連絡先・お問い合わせ先

#### ◆NPO 法人 ETIC.内

震災復興リーダー支援プロジェクト 事務局 (担当: 山内・辰巳)

東京都渋谷区神南 1-5-7 APPLE OHMI ビル 4 階

mail: [fukkou@etic.or.jp](mailto:fukkou@etic.or.jp)

Web: <http://www.etic.or.jp/recoveryleaders/index.html>

特設サイト「みちのく仕事」: <http://michinokushigoto.jp/>